

北高周辺交通環境改善へ向けてのプランがまとまる!

平成20年4月の新構想高校開校へ向けた北高周辺の交通環境改善のプランが、地域や学校、行政等の協働のもとまとまりました。新構想高校開校を見据えたもので実現性の高い内容になっています。

【現状の北高周辺の交通混雑問題】 + 高校合併による今まで以上の交通混雑への不安
(平成17年度まちづくり会議内意見)



「検討会の設置」(平成18年4月)

検討会は、北高・下田市・静岡県(教育委員会・土木事務所・警察)がメンバーです。オブザーバーとして地域の方も参加しています。

安心・安全の通学路「ゆずりあい」プラン

まちづくりかわら版 No.18

キーワードは、「歩行者にやさしい」 & 「ゆずりあい(みんなで協力)」。このプランは3つの輪がいっしょに取り組むことで交通環境の改善を目指すんだ!



高校生が行っていく交通安全活動と連携しながら、PTAの皆さんと地域の皆さんがいっしょになって交通安全活動に参加し、通学のルールを見守りましょう!

【通学ルール】



平成19年4月から実施!

アンケートや地域の方と意見交換会をしながら、北高生が自主的にルールを作成しました!
最善策は送迎車を無くし、公共交通機関や自転車で通学することですが、やむを得ず送迎する場合のルールで「入学の手引き」にも載っています。例) 歩行者が多い時間帯は県道には進入を禁止する。



私たちが決めていこう!

安心・安全の通学路「ゆずりあい」プラン

【交通安全活動】



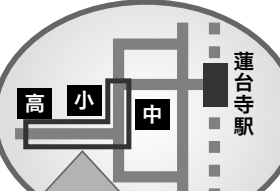
われら「見守り隊」!

【歩きやすい道路】



歩道を広く! 車道は狭く!

下田北高周辺の下図のエリアを「(仮称)ゆずりあい交通ゾーン」と位置付けました!



(仮称)ゆずりあい交通ゾーン

歩行者を最優先する整備方針をまとめました!
○歩行者・自転車の空間を確保し、車道の空間を狭めるように外側線を引き直す。
○歩道部分をカラー舗装する等、車のスピードが抑制されるような道路整備をする。etc



皆さんと一緒にまとめました!

安心・安全の通学路「ゆずりあい」プランを報告

平成19年2月22日に、このプランを下田市長、下田北高校校長、下田土木事務所長等へ報告し、今後の取り組みを確認するとともに、平成19年度以降もこのような場を継続して持つことに決まりました。



これからはみんなが協力し合い、このプランを実行していきましょう! 下田市民課を中心にサポートしていきます!



●問合せ先
市民課防災係 TEL 22-2215
E-mail:shimin@city.shimoda.shizuoka.jp
建設課伊豆縦貫道係 TEL 22-2219
E-mail:kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp

宝篋印塔とは
起源は中国に求められるとされ、本来は宝篋印陀羅尼というお経を納めていた塔です。わが国では石造りの宝篋印塔が多く、鎌倉時代以降、供養塔・墓碑塔として広く建立されました。



河内の宝篋印塔

河内の重福院には、不思議な形をした大きな石造りの塔があります。この石塔は宝篋印塔と呼ばれる形式のもので、建立年の古さと大きさ、造りの良さによって静岡県の指定文化財となっています。

静岡県指定文化財
河内の宝篋印塔
所在地 河内 重福院
指定日 昭和63年3月18日

下田市内の指定文化財(その2)



台座に刻まれている文字

建武元年(1334)6月21日、沙忍の強い願いと、出家者の覚円(あき)の協力、妙弥(たみ)が檀家(だんか)智道の経済的負担によって完成した。この造塔と供養し、万民が安らぎを得ら

願以此一善、報上四恩、及十方民、仍所修、如件
建武元年
大才甲成
六月廿一日
施主 沙忍
比丘 覚円
大檀那妙智道

トル40センチの堂々とした関東式の宝篋印塔です。塔身には金剛界四仏が梵字で表され、台座には次のような文字が刻まれています。

この宝篋印塔は、元々は山中の塔ノ平という場所にあったと伝えられており、やがて里に降り、数回にわたり場所を変えながらも河内の人々によって先祖の遺産として大切に保存され続け、昭和36年に重福院に移転されました。宝篋印塔が物語ること
今から670年以上も昔の室町時代初期に、すでに河内には大きな石塔を建立する経済力をもった有力者が住む集落があったことを意味しており、また宝篋印塔の移転は、河内の集落の発展と広がり軌跡を物語っていると言えます。
下田市内には、堀ノ内や茅原野などに、中世の宝篋印塔が残存していますが、その中でも河内の宝篋印塔は大きさといい、造りといい、群を抜いた優品です。みなさんも是非、中世の人々の願いが込められたこの石塔をくらんになってはいかががですか。
アクセス
蓮台寺駅より徒歩10分
問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎5055

樹のまち vol.63

先月号で下田市の借金の状況を少し書きました。もう少し市民の皆様にも色々と知っていただきたいと思えます。この3月に静岡県市町総室より平成18年度の指標がまとめられました。下田市の人口増加率は4.5%、1,241人の減、65歳以上の高齢化率28.6%(熱海31.8%、伊東27.2%、河津30.6%、南伊豆34.1%)、出生率が千人当たり6.7人、死亡率が12.2人です。下田を含め賀茂郡下の高齢化が進み、人口がどんどん減っていくのが理解できる数字です。市の職員数は同じく千人当たり9.5人(熱海13.3人、伊東9.8人、河津10.3人、南伊豆13.1人)です。市の収入額を財政需要額で割って出す財政力指数は0.56(熱海1.04、伊東0.87、河津0.43、南伊豆0.35)で下田は23市で最下位です。観光入込客数350万人・宿泊数108万人(熱海733万人・291万人)伊東1,121万人・299万人)です。観光中心で成り立っている市の現状を考えると、財政力を強化する一層の努力を市

民の皆様のご協力を得ながら今後も続けてまいります。
明るい話題は『第3回・風の花祭り』。3月18日などが浜海遊公園でのオーブニングは天候にも恵まれ、多くの市民や観光客が訪れました。今年のテーマは『動物公園』。カバやキリン・ウニ・カメ・キンメダイなどのモニュメントに、市内の子供たちや市民有志が手作りした21種、1万84個の風ぐるまが飾りつけられました。3年前に家族で下田に移り住み指導いただいたいるペーパーアーティストの広井敏通先生と、市民の皆様のボランティアによる、まさに市民手作りのイベントであり、市長として心から感謝申し上げます。先生は5月に韓国の都市からも招へいを受け、新都市宣言のイベントで花の風ぐるまを披露するとの事。下田駅からの道筋に風ぐるまを飾ってまどが浜海遊公園への導線を作れたら楽しいですね!と夢を語ってくれました。
来年も多くの皆様のご協力をお願いいたします。



下田市長 石井直樹